



kanamoto カナモトエグザミナー examiner

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.38

第42期(2006年10月期)事業報告号

株主・投資家の皆様へご挨拶●事業別概況のご報告●取扱商品のご紹介●当社拠点ネットワークと連結子会社の状況

財務諸表●ニュースハイライト●株主様からの質問に答えるQ&Aコーナー●株式情報

To Our Shareholders

株主・投資家の皆様へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より株式会社カナモトにご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2004年10月期にスタートした長期経営計画「メタモルフォーゼ」も3期間を経過しました。開始後の2年間は苦戦を余儀なくされましたが、全社を挙げてたゆまぬ努力を続けた結果、3期目の昨年度はほぼV字回復を遂げ、連結決算開始後における最高益を記録することができました。

しかしながら、当社を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあります。さらなる飛躍を目指す当社にとって引き続き必要となるのは“努力の積み重ね”以外のなにものでもありません。現状に満足せず、知恵を絞り、自己を磨き続け、努力する姿勢を継続してこそ勝利を収めることができるのだと考えます。

昨年の年頭に、当社並びにグループ会社内に向けて、私は「塵も積もれば山となる」とのメッセージを送りました。たとえ小額ではあっても、日々の売上上乘せ努力を1年365日コンスタントに継続するならば、カナモト単体でも150ヶ所弱を数える営業拠点での合計額は大きなものになる、という趣旨であります。

今後も努力を惜しむことなく「高収益体質の企業への変身」という目標に向けて前進してまいります。皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以下、簡単ではございますが2006年度(第42期)の事業報告をお届けしますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

株式会社カナモト 代表取締役社長

金本 寛中

当社連結会計期間の概況

2006年の日本経済を顧みますと、景気は堅調に回復したものの大都市圏と地方との二極化が進んだ格差景気の煽りを受け、当社の経営環境も厳しいものでした。そのなかで、主力事業の建機レンタルは大都市圏で官民ともに需要が拡大するなど、それぞれの地域状況に沿ったユーザーニーズに的確に対応し全体的に堅調に推移しました。同事業による販売についても当初計画を上回る収入を確保しています。一方、利益面では、長期経営計画で改善を目標としてきたレンタル用資産の運用効率の向上、単価の回復と減価償却負担軽減などの施策効果が、進捗に若干の遅れはあったものの着実に成果として表れてきており、営業利益、経常利益、当期純利益ともに当初予想、並びに前年同期実績を大幅に上回りました。

この結果、平成18(2006)年10月期通期連結決算の売上高は680億23百万円(対前年同期比6.3%増)、営業利益は40億68百万円(同189.7%増)、経常利益は37億88百万円(同144.4%増)、当期純利益は17億42百万円(同394.2%増)となりました。

経営戦略の具体的な施策

売上・利益面ともに前年度実績を上回る結果となりましたが、引き続き利益重視の経営を実践していく所存です。以下に挙げる長期経営計画『メタモルフォーゼ』における施策を背景に、一層の業績拡大とマーケットに評価される“強いカナモト”を目指してまいります。

① 利益重視のレンタル用資産構成の継続

最新型公害対策機への入替で短期化していた運用期間の適正化を継続するほか、収益率の高い機種を優先的に増強するなど、利益率向上に努めます。

② 大胆なスクラップ&ビルドの実施

新設出店は首都圏及び大都市圏周辺を優先、地方は現状維持を基本とします。当社グループ未出店地区については、あらゆる情報、機会をとらえ積極的に進出を検討していく方針であります。また、業績の伸長可能性、採算性をよく吟味して拠点閉鎖・統合を続けます。

③ 顧客第一の強い営業体制の構築とアライアンス

新カナモト総合補償制度、各地方自治体との災害発生時の緊急要請対応契約締結など、企業規模を最大限に生かしたサービスの提供と、ユーザーニーズに直結した商品の提供により、顧客信頼度が高かつ地域社会に根ざした企業を目指します。また、北海道から沖縄まで網羅する当社グループ企業並びにアライアンス(提携)企業との企業連携を強化してシナジー効果を高めてまいります。

当該事業年度(2006年10月期 通期)の連結経営成績の結果

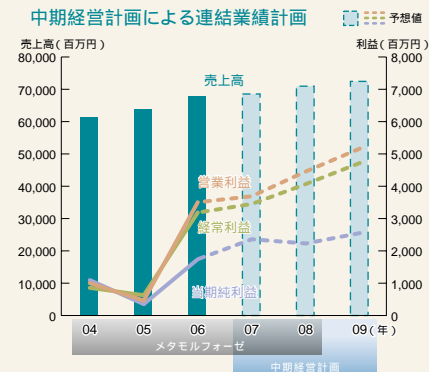
	前期	当該期
売上高	63,975 (4.3)	68,023 (6.3)
営業利益	1,404(25.2)	4,068 (189.7)
経常利益	1,550(11.4)	3,788 (144.4)
当期純利益	352(67.9)	1,742 (394.2)

単位:百万円 括弧内は対前年同期比増減(%)

「メタモルフォーゼ」数値目標

		2008年10月期
連結の業績	売上高	70,980百万円
	経常利益	4,560百万円
	1株当たり当期純利益	67.87円
単体の業績(当社)	売上高	63,670百万円
	経常利益	4,500百万円
	E B I T D A *	19,960百万円

中期経営計画による連結業績計画



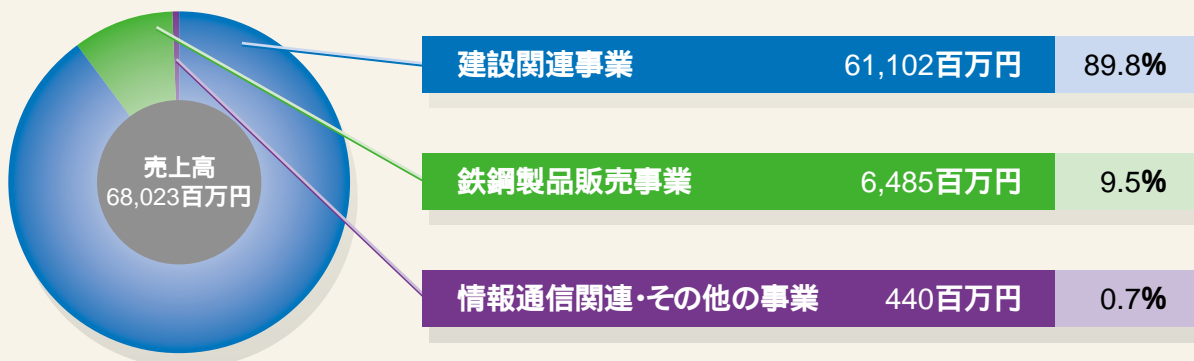
次期(2007年10月期)の連結業績予想

	中間期予想	通期予想
売上高	35,530 (2.9)	68,570 (0.8)
営業利益	2,940 (2.3)	4,230 (4.0)
経常利益	2,870 (2.5)	4,020 (6.1)
当期純利益	1,830 (74.5)	2,360 (35.4)

単位:百万円 括弧内は対前年同期比増減(%)

事業別概況のご報告

事業別売上高構成比



建設関連事業

当社を取り巻く環境、すなわち建設需要動向をみますと、首都圏などの活発な地域では好調な官民需要に加え、羽田新滑走路建設などの大型プロジェクトが徐々に動き出しているほか、中京地区や関西地区などの大都市圏でも需要が上向いてきていますが、北海道地区、東北地区をはじめとする「地方」については、依然厳しい状況が続いています。

当社グループ全体の建設関連事業における通期連結業績は、こうした厳しい経営環境にありながらも、売上高が611億02百万円(対前年同期比5.6%増)、営業利益は38億12百万円(同216.7%増)と増収増益となりました。



また、当社の当該事業部門単体では、レンタル売上は対前年同期比5.7%増の414億35百万円、販売売上は同4.6%増の123億97百万円、合計で538億32百万円、対前年同期比で5.4%増の結果となっております。

Lineup 取扱商品のご紹介

今回の取扱商品紹介コーナーでは、使い方次第でさまざまな演出効果が期待できる壁材・床材パネル「Eco eco system」をご紹介します。

Eco eco system

「循環型リサイクル」をキーワードに商品開発を行っている三忠商事株式会社(<http://www.sanchu-s.co.jp>)。今回ご紹介する同社の「Eco eco system」も環境にやさしいエコロジー製品です。循環型リサイクル材を使用し、(財)日本環境協会のエコマーク認定を取得しています。



写真の木目(グローバルバイン)のほか、少し色の濃い木目(ラスティックセター)、ドーパーホワイト、ブライトホワイト、ウェザートグレーの5色の壁材をご用意

Eco eco systemとは、展示会のブースをはじめ、店舗や事務所、住宅などの壁材・床材となるプラスチック製の難燃性新素材のこと。加工性にすぐれ、切断や釘打ち、やすり加工などが簡単にできます。

また、床材2色・壁5色のカラーパリエーションがあるので空間デザインの幅も広がります。たとえば、イベントショーなどにブースを出展する場合。壁や床に、年輪までもが表現された「木目」



まるで本物の木のような「Eco eco system」

を使用いただくと、木の温もりが感じられる、どこか“あたたかみ”のあるブース演出ができるでしょう。あるいは「グレー」に統一し、シンプルな色調のブースに仕上げれば、展示品を際立たせることも可能です。

また、燃えにくく、防水性に優れたEco eco systemは屋外での使用にも最適。事務所や住宅の内装・外装材としても活用いただけます。☑

鉄鋼関連事業

札幌市内のマンション等民間建築の駆け込み需要と苫東地区(苫小牧市)の民間設備投資需要から、取扱高も順調に推移しました。普通鋼材の販売価格の急落などもありましたが、売上高は64億85百万円、対前年同期比で13.8%増、営業利益も77.8%増の44百万円となりました。



情報通信関連・その他事業

情報機器事業部門は、パソコンレンタルの需要は堅調だったものの、レンタル料金の低廉化によって対前年同期比では2.9%減となりました。一方、商品販売は中古機販売が好調に推移し同39.6%増、部門全体では10百万円(同1.2%増)の増収、営業利益は31百万円(同54.6%増)でありました。



当社拠点ネットワークと連結子会社の状況

当社グループは、当社及び子会社7社で構成され、建設用機械並びに建設関連機材全般のレンタル・販売を主な事業としております。

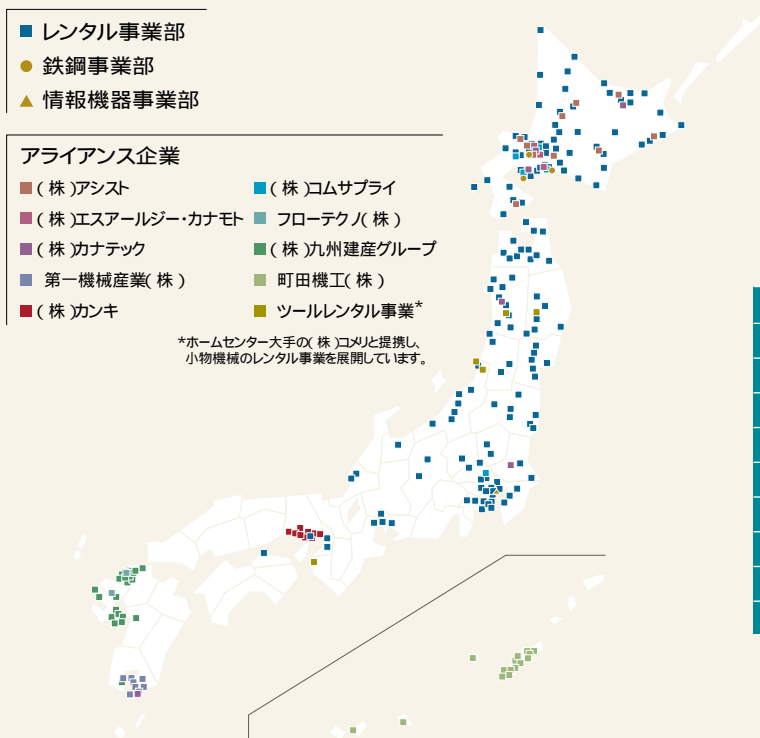
当社単体の状況

まず、当社単体の状況からご報告いたします。当社の建設機械レンタル売上を地域別に見ると、北海道地区は建設総投資額が毎年減少しているにもかかわらず対前年同期と変わらない売上を確保しました。一方、東北地区も北海道地区と同様に厳しい環境にありましたが、県庁所在地の再開発プロジェクトなどを確実に受注した結果、東北地区は同13.7%増と前期同様好調に推移しました。また、関東信越地区は好調な首都圏に加え、新潟県の

災害復旧特需と北関東での民間設備需要と各地各様の需要を取り込めたことから同7.0%増、近畿中部地区は大阪の需要回復と(株)カンキとの相乗効果から同6.8%増となるなど、全国的に営業努力が実って堅調な結果を得られました。

なお、「北海道」対「本州その他」の地域の比率は35.3%：64.7%でした。

また、当期の拠点新設閉鎖は、新設は占冠営業所(北海道勇払郡占冠村)、三条営業所(新潟県三条市)、大宮営業所(さいたま市西区)の3カ所、閉鎖は金沢営業所(石川県金沢市)の1カ所でした。この結果、当社の営業拠点数は148拠点となっています。



当社及び当社グループ営業拠点エリア別内訳

	カナモト	連結対象会社	その他・アライアンスグループ	計
北海道	57	17	4	78
東北	43	2	5	50
関東	27	1	1	29
中部	15	-	-	15
近畿	5	7	-	12
中国	-	-	-	0
四国	1	-	-	1
九州	-	8	23	31
沖縄	-	-	15	15
計	148	35	48	231

連結子会社の状況

次に当社連結子会社の状況についてご報告申し上げます。第一機械産業株式会社は建機レンタルが好調に推移するなか災害復旧需要などもあって、売上高は前年同期比12.3%増、営業利益は前年同期比127,532千円の増加と、過去最高の増収増益となりました。

株式会社エスアールジー・カナモトは札幌圏内ではマンション建築工事向け足場が、また地方では橋梁工事向け足場がそれぞれ好調に推移し、売上高は対前年同期比26.0%増、営業損失も同80.5%減の大幅な改善をみました。

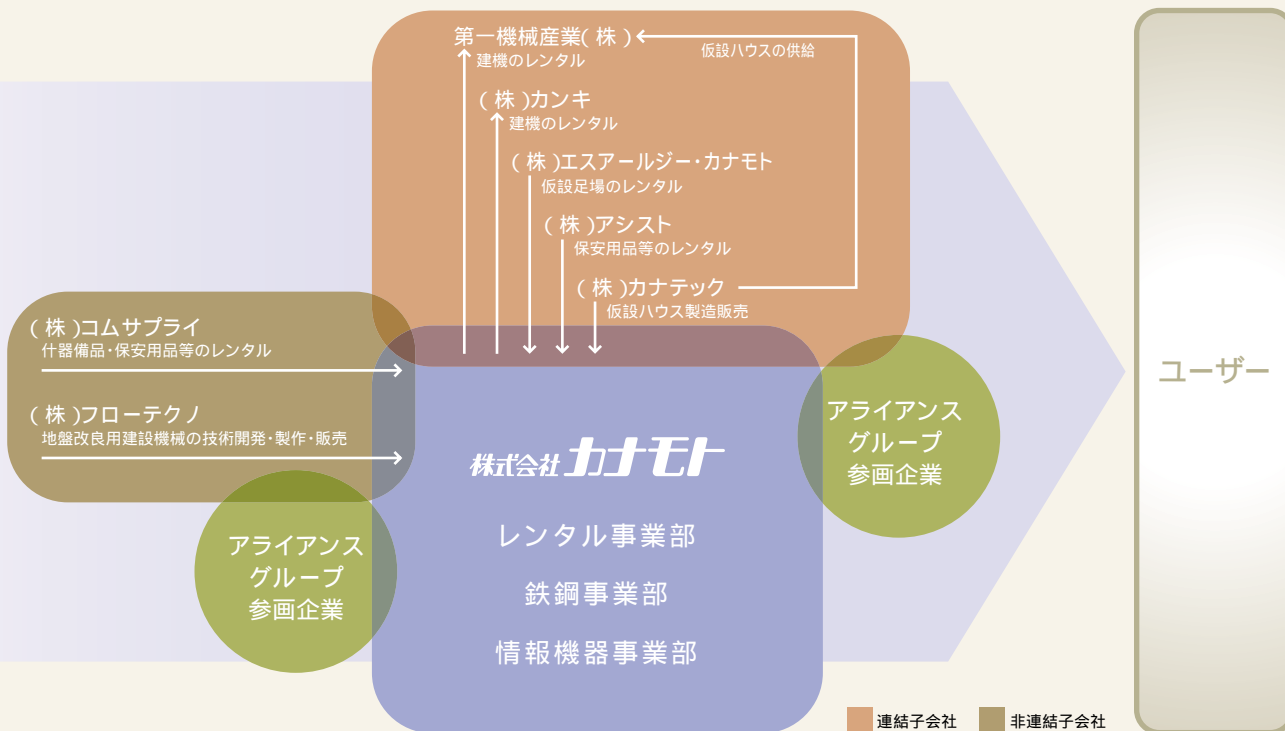
株式会社アシストは、利益率の高いレンタル商材に特化する施策効果により、当初目標を下回ったものの売

上高は対前年同期比1.3%増、営業利益も同135.2%増の増収増益となりました。

経営再建中の株式会社カンキは、建機レンタル事業に経営資源を集中するなど事業の再構築を図ったことにより、売上高は対前年同期比6.0%減でした。なお、大幅増強したレンタル用資産のコスト負担、姫路営業所の新規出店のコスト負担があり最終損失計上となりましたが、営業利益は対前年同期比47,874千円増と大幅に改善しております。

株式会社カナテックは、資材在庫、完成品在庫の管理体制を整理するなど改善を進めた結果、売上高は対前年同期比31.2%増となり、営業利益が前年同期比145,998千円増と改善を見ました。

カナモトアライアンス & アソシエーツ



連結財務諸表

連結損益計算書

	第41期末 (2004.11.1 - 2005.10.31)	第42期末 (2005.11.1 - 2006.10.31)
(単位:百万円)		
① 売上高	63,975	68,023
売上原価	48,735	49,745
売上総利益	15,240	18,278
販売費及び一般管理費	13,835	14,210
② 営業利益	1,404	4,068
営業外収益	716	315
営業外費用	570	595
② 経常利益	1,550	3,788
特別利益	121	394
特別損失	545	729
税金等調整前当期純利益	1,125	3,453
法人税、住民税及び事業税	858	1,767
法人税等調整額	97	77
少数株主利益	11	21
③ 当期純利益	352	1,742

連結キャッシュ・フロー計算書

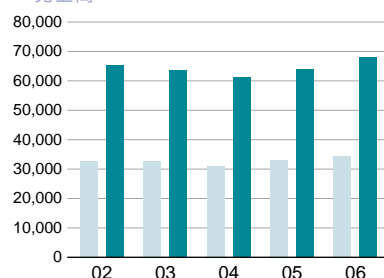
	第41期末 (2004.11.1 - 2005.10.31)	第42期末 (2005.11.1 - 2006.10.31)
(単位:百万円)		
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	10,219	8,414
投資活動によるキャッシュ・フロー	11	489
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,833	3,635
現金及び現金同等物の増加額	2,374	4,289
現金及び現金同等物の期首残高	11,734	14,108
現金及び現金同等物の期末残高	14,108	18,398

Point

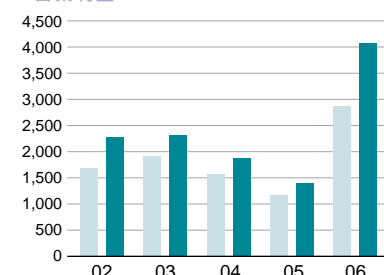
- それぞれの地域状況に沿ったユーザーニーズに対応して堅調な成果を上げることができ、対前年同期比6.3%増となりました。
- 長期経営計画で改善を掲げてきたレンタル用資産の運用効率向上、単価回復と減価償却負担軽減などの施策効果が若干の進捗の遅れはありましたものの着実に成果として表れてきており、営業利益(対前年同期比189.7%増)、経常利益(同144.4%増)ともに当初予想、並びに前年同期実績を大幅に上回りました。
- 固定資産の減損処理で特別損失を5億94百万円計上しましたが、一方で子会社関係の引当処理がなくなったこと、特別利益で土地の取用益を計上したことにより、当期純利益は対前年同期比394.2%増と大幅に伸びました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前期に比べ18億04百万円減少しました。これは主に税金等調整前当期純利益の増加があったものの、一方で前期において受取手形債権の流動化に伴う売上債権の大幅な減少がありました。当連結会計年度において平準化されたことによりです。

単位:百万円
■ 中間期 ■ 通期

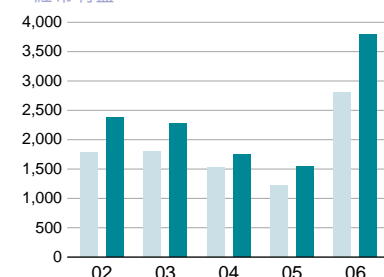
売上高



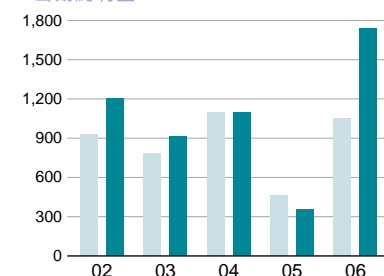
営業利益



経常利益

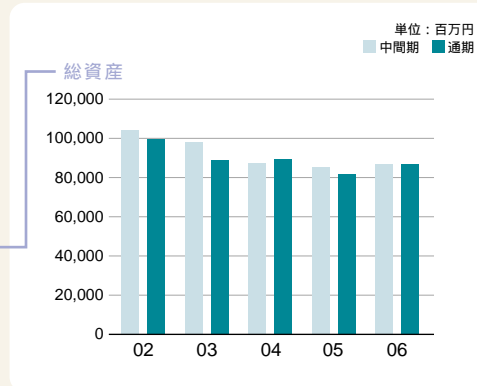


当期純利益



連結貸借対照表

(単位:百万円)	第41期末 (2005.10.31)	第42期末 (2006.10.31)
(資産の部)		
流動資産	30,718	35,732
固定資産	51,258	51,083
有形固定資産	43,538	43,123
無形固定資産	688	536
投資その他の資産	7,031	7,423
資産合計	81,977	86,815
(負債の部)		
流動負債	26,137	28,571
固定負債	22,303	20,192
負債合計	48,440	48,763
(少数株主持分)		
少数株主持分	71	
(資本の部)		
資本金	8,596	
資本剰余金	9,720	
利益剰余金	13,691	
その他有価証券評価差額金	1,643	
自己株式	186	
資本合計	33,465	
負債・少数株主持分及び資本合計	81,977	
(純資産の部)		
株主資本		35,540
資本金		9,696
資本剰余金		10,960
利益剰余金		14,889
自己株式		6
評価・換算差額等		2,418
その他有価証券評価差額金		2,418
少数株主持分		92
純資産合計		38,051
負債・純資産合計		86,815



会社法における会計について

2006年5月施行の会社法により、以下のような対応をとっています。

「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

期中における剰余金の変動は、新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、「未処分利益」の計算区分が廃止されました。

新設された「株主資本等変動計算書」は、貸借対照表の純資産の部の中で、主として、皆様に帰属する株主資本について、その一会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

連結株主資本等変動計算書 (2005.11.1 ~ 2006.10.31)

(単位:百万円)	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
2005年10月31日残高	8,596	9,720	13,691	186	31,822	1,643	1,643	71	33,536
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	1,099	1,097			2,197				2,197
剰余金の配当			268		268				268
剰余金の配当(中間配当)			268		268				268
利益処分による役員賞与			7		7				7
当期純利益			1,742		1,742				1,742
自己株式の取得				11	11				11
自己株式の処分		143		192	335				335
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						775	775	21	796
連結会計年度中の変動額合計	1,099	1,240	1,198	180	3,718	775	775	21	4,515
2006年10月31日残高	9,696	10,960	14,889	6	35,540	2,418	2,418	92	38,051

個別財務諸表

個別損益計算書

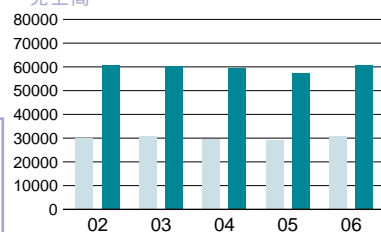
(単位:百万円)	第41期末 (2004.11.1 - 2005.10.31)	第42期末 (2005.11.1 - 2006.10.31)
売上高	57,202	60,753
売上原価	43,789	44,904
売上総利益	13,413	15,849
販売費及び一般管理費	11,886	12,133
営業利益	1,526	3,715
営業外収益	923	561
営業外費用	489	537
経常利益	1,960	3,739
特別利益	69	360
特別損失	837	809
税引前当期純利益	1,192	3,289
法人税、住民税及び事業税	833	1,684
法人税等調整額	249	114
当期純利益	609	1,720
前期繰越利益	587	
中間配当額	268	
当期末処分利益	928	

個別貸借対照表

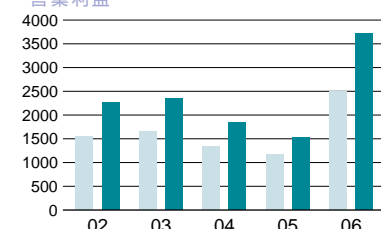
(単位:百万円)	第41期末 (2005.10.31)	第42期末 (2006.10.31)
(資産の部)		
流動資産	28,665	32,984
固定資産	50,372	50,530
有形固定資産	42,622	42,308
無形固定資産	187	147
投資その他の資産	7,562	8,074
資産合計	79,037	83,514
(負債の部)		
流動負債	24,082	26,234
固定負債	21,052	18,903
負債合計	45,134	45,138
(資本の部)		
資本金	8,596	
資本剰余金	9,720	
利益剰余金	14,135	
その他有価証券評価差額金	1,637	
自己株式	186	
資本合計	33,903	
負債資本合計	79,037	
(純資産の部)		
株主資本		35,962
資本金		9,696
資本剰余金		10,960
利益剰余金		15,310
自己株式		6
評価・換算差額等		2,414
その他有価証券評価差額金		2,414
純資産合計		38,376
負債・純資産合計		83,514

単位:百万円
■ 中間期 ■ 通期

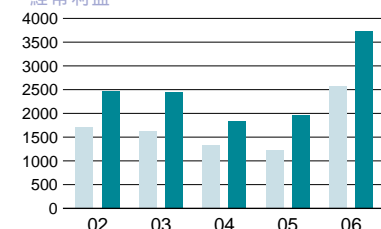
売上高



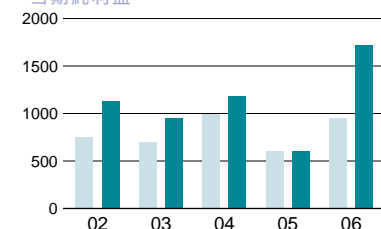
営業利益



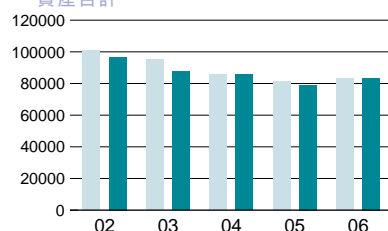
経常利益



当期純利益



資産合計



株主資本等変動計算書 (2005.11.1～2006.10.31)

	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計					
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金						
(単位:百万円)														
2005年10月31日残高	8,596	9,720		9,720	1,375		11,831	928	14,135	186	32,265	1,637	1,637	33,903
事業年度中の変動額														
新株の発行	1,099	1,097		1,097							2,197			2,197
固定資産圧縮積立金の積立							19	19						
剰余金の配当								268	268		268			268
剰余金の配当(中間配当)								268	268		268			268
利益処分による役員賞与								7	7		7			7
当期純利益								1,720	1,720		1,720			1,720
自己株式の取得										11	11			11
自己株式の処分			143	143						192	335			335
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額(純額)												776	776	776
事業年度中の変動額合計	1,099	1,097	143	1,240		19	1,155	1,155	1,175	180	3,696	776	776	4,472
2006年10月31日残高	9,696	10,817	143	10,960	1,375	19	11,831	2,084	15,310	6	35,962	2,414	2,414	38,376

読者プレゼント

今回、皆様にお届けするプレゼントは、カナモトオリジナルの「スプーン＆フォークセット」です。ハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で30名の方に差し上げます。
 ご注目いただきたいのは、スプーンとフォークの柄の部分。当社シンボルキャラクターのカナモト坊やが、おなじみの“敬礼ポーズ”で描かれています。さらに、裏側にはそれぞれ違う図柄入り。スプーンにはパワーショベル、フォークにはトラックと、ともに当社の取扱商品がデザインされています。
 少し小ぶりのスプーン＆フォークなので、ケーキなどのデザート用として、あるいはお子さま用としてお使いください。

写真はイメージです



なお、締め切りは2月14日(当日消印有効)です。
 当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

「アスベスト対策環境展'06」に出展しました

昨年10月24日～26日に、東京ビッグサイトで開催された「アスベスト対策環境展'06」に当社も出展しました。開催期間3日間の来場者数は、併催された危機管理産業展2006との相乗効果により、当初予想の5万人を上回る8万2,000人以上と大盛況。高規格の負圧集塵機をはじめとする最新のアスベスト対策機器を展示した当社ブースにも大勢の専門家の方々にお越しいただきました。なかでも大気中のアスベスト濃度を正確かつ即座に測定できる『リアルタイムモニター』に対するご

質問・ご意見が多く寄せられ、業界内での注目度の高さを改めて認識しました。

今後もニーズに即した最新機器

を提供し、建設業界全体が抱える課題の解決に向けて取り組んでまいります。CC



ひときわ反響が大きかった『リアルタイムモニター』

「ウイングアーク・フォーラム2006」で講演を行いました



たくさんの方に聴講いただきました

帳票システムの開発・販売などで実績のあるウイングアークテクノロジー社主催の「ウイングアーク・フォーラム2006」(アレア品川)が昨年11月30日に開催され、当社も参加し

ました。当社のシステム基盤構築について、執行役員情報システム部長の熊谷浩が「マイグレーションで付加価

値を生む帳票とBI(ビジネスインテリジェンス)」と題して講演を実施。企業に集まる膨大なデータを効率的に蓄積し、経営者や社員が自在に分析・加工することで、より適切な判断を迅速に行うためのシステム「BI」の重要性を中心に説明いたしました。聴講いただいた方々からは「IT屋とは一線を画し、あくまで経営の視点から、企業の根幹となるシステムを革新的に構築している点に共感した」とご評価いただきました。今後も現有のノウハウを活かしながら、ビジネス統合システムのさらなる効率化を目指していきます。CC

たくさんの方々にお越しいただいた「第9回ノムラ資産管理フェア」

アスベスト対策環境展'06、ウイングアーク・フォーラム2006に続き12月1日・2日には、東京国際フォーラムで開催された「第9回ノムラ資産管理フェア」にも参加しました。昨年同様、存在感のあるカナモト坊やのKバルーン投光機を設置し、加えて業績データをわかりやすくお見せするため、大型のIRポスターを壁面全体に貼付。そうした工夫が奏功したのか、イベント来場者1万8,000名のうち、2,700余名もの方々が当社ブースにお見えになりました。予想を上回るほど訪問いただいた方が多く、お一人お一人に時間をかけ丁寧なご説明

ができなかったことが心残りです。

今年は、個人投資家の方々に向けた説明会の増加を検討するなど、皆様に当社を少しでもご理解いただけるよう努めてまいります。CC



来場者の方々が、通路まで溢れるほどの賑わいを見せた当社ブース

機関投資家向け決算説明会を開催しました

去る12月13日、東京証券取引所1階の東証アローズにおいて、社団法人日本証券アナリスト協会主催による当社2006年10月期決算説明会を開催いたしました。

当社代表取締役社長の金本寛中から長期経営計画の進捗状況と2007年10月期からの中期経営戦略について、また、取締役執行役員経理部長の卯辰伸人から2006年10月期決算概要について説明を行いました。この模様は当社IRサイト<http://www.kanamoto.ne.jp>に動画を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

説明会後の質疑応答では、過去最高の増収増益となった今回の決算内容が今後も継続できるかという点に質問が集中。その回答として、メタモルフォーゼによる体質改善の成果が現れていることを設備投資動向などと合わせて

ご説明し、ご理解をいただくことができました。加えて、年明け早々にも予想される金利上昇の影響についても質問が及びましたが、影響はあるものの当社では長期固定金利を採用していることから、現時点では大きな金利負担が発生する状況にはない旨を回答いたしました。☒



今後の経営戦略について説明をする
代表取締役社長・金本寛中

部門新設・組織変更を行いました

昨年11月1日付で、営業統括本部に「海外事業室」を新設しました。同部門は、海外での事業展開ならびに海外関連企業を管轄するセクションとして、まずは既報のとおり昨年12月の董事会(役員会)により、本年2月からの営業開始が決定した「上海金和源設備租賃有限公司」の運営を進めてまいります。

また、レンタル事業部北海道地区の営業所グルーピングを再考し、同日付で「空知ブロック」を再編成しました。当ブロックは、2004年に一度は近隣ブロッ

クに收容したものの、地域シェア拡大を目的に、きめこまやかな営業を実践するため再編成したものです。この結果、北海道地区は現在7ブロック体制となっております。

なお、同じく11月1日に広報課と秘書室を統合し「社長室」を設けました。社長直轄のセクションとなった広報は投資家の皆様とカナモトの架け橋として、これまで以上に粉骨砕身していく所存です。☒

増収増益に向けた「キックオフミーティング」を開催

2007年10月期という新しい期を迎えるにあたり、カナモトでは関東を皮切りに各地区でキックオフミーティング(決起集会)を開催しました。

代表取締役社長・金本寛中の「第44期(2008年10月期)で終了するメタモルフォーゼを有終完美とするためには、当期は大事な通過点である」という一声にはじまり、具体的強化策の提示のほか、地区統括部長、ブロッ

ク長、営業所長がそれぞれのコミットメントを宣言。各自「誓約」「公約」と訳されるコミットメントという言葉の意味を深慮したうえでの表明となりました。

今期も全社員が一丸となって前期の業績V字回復路線を堅持し、増収増益の記録更新を目指してまいります。☒

1級建設機械整備技能士試験に稲月工場長が合格

このたび、当社新潟営業所の稲月工場長代理が1級建設機械整備技能士試験に、また東海営業所の杉本社員が2級建設機械整備技能士試験にそれぞれ合格いたしました。さらに、稲月工場長代理は新潟県職業能力開発協会主催の「平成18年度前期技能競技大会」において建設機械整備作業の職種1位通過を果たし、杉本社員も三重県の技能競技大会で協会長賞1位を獲得。手前味噌になりますが、こうしたご報告ができるのも、日頃の業務に真摯に取り組んできた結果であると自負しております。

現在、当社の建設機械整備技能士資格保有者は、特級12名・1級90名・2級192名の総勢294名となっています。これからも品質・安全性ともに確かな商品を提供できるよう、研鑽を重ねていきます。kca



平成18年度前期技能競技大会で表彰された
稲月工場長代理

株主様からのご質問に答える

Q & A コーナー

株主の皆様からカナモトに寄せられたご質問をご紹介します、誌上でお答えしています。

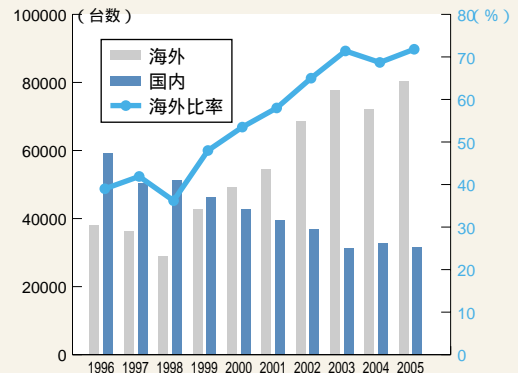
Q 古くなってレンタルができなくなった機械はどうなるのでしょうか？

A カナモトでは、古くなったレンタル用資産の大半を中古建機として売却しています。レンタル用資産は、お客様に安心してお使いいただけるように、各営業所に配備された整備スタッフが日々建機の安全管理、機能維持の整備を行っています。この整備が中古売却の際にも資産価値低下を抑制する成果につながっています。資産の入れ替えは、中古で売れる価格とレンタルで稼げる収益とのバランスを見ながら中古マーケットを考慮して、売却時期を決定します。レンタルで使い終わった資産の売却オペレーションは、将来のレンタル収入や売却収入と密接に関わり、当社の業績に影響を与えますので、非常に重要視しています。

中古売却した建機のほとんどは海外に輸出され、なかでも中国をはじめ東南アジア、中東などのほか北米やオセアニアからも引き合いがあり、近年経済発展のめざましいBRICs諸国からも問い合わせが目立ち始めています。

建機メーカーの業界団体(社)日本建設機械工業会の調査によると、海外の中古建機需要はグラフのとおり右肩上がりの推移です。今後も海外からの引き合いが多く見込まれますので、当社の中古売却は堅調に推移するものと予想されます。kca

中古建機需要(国内・海外)



(社)日本建設機械工業会調べ
2005年度中古車建設機械の流通量調査より

株価チャート(週足)



株価および売買高(東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2006年 1月	778	880	743	841	1,582
2月	841	845	700	741	707
3月	748	869	740	861	1,020
4月	856	925	856	925	1,693
5月	924	1,002	905	977	2,168
6月	969	1,091	920	1,081	2,884
7月	1,076	1,147	990	1,100	2,648
8月	1,110	1,130	1,042	1,064	1,040
9月	1,053	1,062	863	887	3,617
10月	890	890	820	846	2,473
11月	833	852	700	829	1,609
12月	819	875	811	843	995

株主メモ(2006年10月31日現在)

資 本 金	96億9,671万円(払込済資本金)
発 行 株 数	32,872千株(発行済株式総数)
決 算 期	毎年10月31日(年1回)
株 主 総 会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
利益配当金受領株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
公 告 の 掲 載	当社ホームページ、日本経済新聞*

お手持ちの株券に関するお手続きのほか、住所、名義、届出印、配当金の振込み口座などの変更をご希望の場合は、下記<株主名簿管理人>宛てにご連絡をいただきたく、お願いいたします。なお、株券を証券会社に預託されている場合は、当該証券会社へご連絡下さいませようお願い致します。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒171-8508
 および電話照会先 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店

* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ <http://www.kanamoto.co.jp> または <http://www.kanamoto.ne.jp> に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。

これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます(具体的な実施日は政令で決定されます)。「株券の電子化」の詳細につきましては、日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先
 証券受渡・決済制度改革懇談会事務局 TEL. 03-3667-4500
 ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>

編集後記

猪突猛進。野生の猪の猛々しさを示すものと今日まで盲信してきましたが、猪が猛進するのはパニックに陥った時だけだそう、ホントは意外にも大人しい性格なんだとか。何だかイメージ狂ちゃいますね。

では改めて今年の干支は丁亥(ひのとい)。陰陽五行では、丁は陰の火、亥は陰の水。相手を打ち滅ぼす相剋(水剋火)の関係ですが、それほど悪くはなさそうです。丁は新芽が地表に出る直前の状態を表し、一方の亥は種のなかに命が温められている状態で全てに行き渡り備わるという意味だそうです。都合のいい解釈ですが、今年は着実に事を進めれば、次の成長への結果をキチンと得られる年ということでしょうか。社長以下、着実に日々の努力を積み重ねて、過去最高収益記録の連続更新を目指し猪突猛進!であります。

ところで表紙の絵は札幌市内の工事現場でお使いいただいている『自走式多目的事務所(トイレ完備)』。ご覧のとおり、カナテック製仮設ユニットハウス・トイレをトラックに搭載したのですが、南北に延びる1.1kmもの工事区間を移動するにはもってこいの製品の様です。☺

2100
古紙配合率100%再生紙を使用



本誌は、再生紙と大豆油インキを使用しております。



(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel : (011) 209-1600 (大代表)

<http://www.kanamoto.co.jp>